

和牛種雄牛産肉能力直接検定成績（2008年度）

砂川隆治 運天和彦 山城存 岸田和美
与古田稔

I 緒 言

沖縄県畜産研究センターでは、種雄牛候補牛の産肉能力評価のため、和牛種雄牛産肉能力検定（直接検定法）を実施している。2008年5月から2008年10月までに検定を終了した種雄牛候補牛の成績について取りまとめたので報告する。

II 検定牛および検定方法

1. 検定牛

肉用牛群改良基地育成事業により生産された子牛から、産子調査により選抜された6頭の雄子牛であり、概要を表1に示した。検定牛の父と母方祖父の組み合わせは、糸桜系×糸桜系が1頭、糸桜系×田尻系が2頭、糸桜系×栄光系が1頭、気高系×田尻系が2頭であった。

2. 検定方法

全国和牛登録協会の和牛種雄牛産肉能力検定（直接検定法）¹⁾に基づき実施した。直接検定法とは、種雄牛候補となる7～8カ月齢の雄子牛を単房式牛房にて112日間飼養し、粗飼料として乾草を飽食給与、濃厚飼料は朝夕の2回給与で、1日の給与量は適正な育成管理となる範囲でおおむね体重比1.0～1.3%を目安としている。

調査は増体量、飼料要求率および余剰飼料摂取量等について実施した。

なお余剰飼料摂取量とは、同じ代謝体重、同じ増体量のもとで、摂取する飼料の量を減らすことを目的として作出された形質である。無駄な摂取量を数値化したものであるため、負の値であれば必要な摂取量よりも摂取量が少なく効率がよいという評価、正の値であれば、必要な摂取量よりも摂取量が多く効率が悪いという評価となる。余剰飼料摂取量の算出方法は、以下のとおりである。

$$\text{余剰飼料摂取量} = \text{摂取量} - \{a \times \text{代謝体重} + b \times \text{増体量} + c \times \text{他方の摂取量} + C\}$$

$$\text{代謝体重} = \{(\text{開始時体重} + \text{終了時体重}) / 2\}^{0.75}$$

$$\text{増体量} = \text{終了時体重} - \text{開始時体重}$$

他方の摂取量＝濃厚飼料の余剰飼料摂取量を求める場合は、粗飼料の摂取量を回帰として、粗飼料の余剰飼料摂取量を求める場合は濃厚飼料の摂取量を回帰として取り込む

a:各飼料における代謝体重の係数 b:各飼料における増体量の係数

c:他方の摂取量の係数 C:定数

表1 検定牛の概要

No.	名 号	生年月日	血 統						生産地	
			父		母	母方祖父		母方曾祖父		
1	平波10の4	07. 8. 25	北	福波	うめたか10の4	安	平	福	茂	伊江村
2	沖海邦	07. 9. 15	勝	海邦	やすかつひら	安	平	忠	福	今帰仁村
3	北福波6	07.10. 2	北	福波	あけみ	中	部6	神	高福	今帰仁村
4	金幸福	07.11. 1	北	福波	かねふく	金	幸	忠	福	読谷村
5	北福平	07.11. 2	北	福波	ふくみ	安	平	隆	桜	八重瀬町
6	飛驒平茂	07.11. 7	勝	海邦	やすふくいぶ	飛驒	白清	安	福	石垣市

Ⅲ 検 定 成 績

検定成績は、表2に体重およびDG、表3に飼料要求率、余剰飼料摂取量および体型評点を示した。

各調査項目の平均値は、開始時日齢235日、開始時体重245.3kg、終了時体重378.3kg、180日補正体重195.2kg、365日補正体重399.5kg、1日当たり増体量(DG)1.19kg、粗飼料摂取率51%、各飼料要求率は濃厚飼料3.36、粗飼料3.47、可消化粗蛋白質(DCP)0.80、可消化養分総量(TDN)4.14であった。

DGについては、平波10の4の1.27kg、沖海邦の1.26kgが優れ、365日補正体重については、北福平の437.5kg、北福波6の348.0kgが最も劣っていた。

また飼料要求率(TDN)については、沖海邦の3.95が優れ、北福波6の4.42が最も劣り、余剰飼料摂取量(TDN)については沖海邦の-10が最も優れ、北福波6の29が最も劣っていた。

10頭の平均値を2007年度の全国平均値³⁾と比較するとDGで0.04kg優れていた。

これらの検定牛のうち、平成20年度第2回沖縄県肉用牛改良協議会専門委員会において、2009年度現場後代検定実施牛(試験種付けを行う)として平波10の4、沖海邦、北福平、飛驒平茂を選抜した。

表2 検定成績(体重およびDG)

No.	名 号	開始時 日 齢	体 重 (kg)				終 了 時		備考
			開始時	終了時	180日補正	365日補正	DG (kg)	体高(cm)	
1	平波10の4	257	268.0	410.0	196.7	404.9	1.27	129.2	○
2	沖 海 邦	236	244.0	385.0	193.2	406.9	1.26	123.6	○
3	北 福 波 6	254	233.0	349.0	173.9	348.0	1.04	120.4	
4	金 幸 福	224	227.0	348.0	188.3	379.3	1.08	123.6	
5	北 福 平	223	260.0	400.0	215.7	437.5	1.25	125.0	○
6	飛 驒 平 茂	218	240.0	378.0	203.4	421.1	1.23	126.2	○
	平 均 値	235	245.3	378.3	195.2	399.5	1.19	124.4	
	標 準 偏 差	17	15.8	25.7	14.1	31.8	0.1	3.4	
	全国平均値	—	—	—	—	—	1.15	124.0	

注1) 全国平均値は2007年度(233頭)の平均値。

2) ○は2009年度和牛種雄牛現場後代検定の実施牛として選抜。

表3 検定成績(飼料要求率,余剰飼料摂取量および体型評点)

No.	名 号	粗飼料摂 取率 (%)	飼 料 要 求 率 (%)				余 剰 飼 料 摂 取 量			体型 評点	備考
			濃厚飼料	粗飼料	DCP	TDN	濃厚飼料	粗飼料	TDN		
1	平波10の4	56	3.13	3.95	0.81	4.22	12	50	23	83.0	○
2	沖 海 邦	56	2.92	3.70	0.76	3.95	-10	17	3	82.5	○
3	北 福 波 6	45	3.94	3.22	0.86	4.42	29	-35	8	81.3	
4	金 幸 福	50	3.49	3.48	0.82	4.23	12	-14	6	81.7	
5	北 福 平	50	3.28	3.34	0.78	4.01	0	-21	-5	83.5	○
6	飛 驒 平 茂	48	3.39	3.11	0.77	3.98	18	-26	3	82.4	○
	平 均 値	51	3.36	3.47	0.80	4.14	10	-5	6	82.4	
	標 準 偏 差	4.3	0.35	0.31	0.04	0.19	13.7	32.2	9.3	0.8	
	全国平均値	—	—	—	—	—	-12.9	16.2	2.6	—	

注1) 全国平均値は2007年度(233頭)の平均値。

2) ○は2009年度和牛種雄牛現場後代検定の実施牛として選抜。

IV 引用文献

- 1) 社団法人全国和牛登録協会(2005)和牛登録事務必携, 57-65
- 2) 社団法人全国和牛登録協会(2007)和牛種雄牛産肉能力検定成績, 4

検定補助：宮里政人